

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175300241		
法人名	株式会社あすなるホーム		
事業所名	あすなるホーム北本		
所在地	埼玉県北本市中丸4-51-5		
自己評価作成日	平成25年 10月 1日	評価結果市町村受理日	平成25年 12月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JiyosyoCd=1175300241-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F
訪問調査日	平成25年 11月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅街で静か ・ 目の前に公園があり四季が楽しめる ・ 広い屋上がある ・ 自分の親又は祖父母に「してあげたい事」を行うように心がけている ・ 相手のた立場に立って考えるようにする
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>目の前に広がる公園は、当事業所がもっている大きな財産の一つである。公園は散歩に出かければ近所の方との触れ合いの場となり、季節の変化を感じながら四季を楽しめる場ともなっている。自治会に加入するなど、地域の一員として、地域との関わりを持つことを大切にしている。管理者が看護師であることは医療との連携が図りやすく、これは利用者やその家族だけでなく、職員も安心したケアを実践できる体制となっている。事業所では「自分の親や祖父母にしてあげたいケア」を行うことに特に力を入れている。これは、管理者の「ホームは一つの家族」という一言にも表れ、利用者へのケアの思いを感じる。いつでも安心して生活できる家で、一人ひとりの感性を大切に、家族として寄り添うケアが実践されている。ホームページに掲載されている写真には、「楽しい我が家」の様子を感じることができる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に社の理念とホームの目標を唱和し業務を開始している	法人の理念を基にして、事業所独自の目標を職員同士で検討して決めている。毎日の朝礼時に行う理念と目標の唱和によって、これらの考えが職員の日々の利用者目線にたったケアに意識することなく反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時や散歩時、地域の方に声を掛けさせて頂いている。地域の清掃活動等に参加している。	地域の一員として、自治会に加入している。自治会の総会にも出席し、地域と関わりを持つことを大切にしている。目の前にある公園に外出できる日には、近所の方とふれあう良い機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の家族を支える「やすらぎ支援員」(傾聴ボランティア)の受け入れをしている。「認知症家族の会」の会合に参加したこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見は、職員に報告し、ケアに活かせるよう努力している。	運営推進会議には、市の職員、地域包括、自治会役員、民生委員、利用者の家族等が参加し年6回開催している。実施した行事など事業所で取り組んだことを報告し、地域の理解や支援を得られる様に働きかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス事業所連絡部会に参加し、話し合いを持っている。市への事故報告書の提出により指導頂いている。	市の職員と直接話し合う機会を作り、情報を共有しているので、引き続き良い協力関係が築けている。運営推進会議や連絡部会などを通じて、事業所の実情や取組みを伝え、市との連携を図ることを積極的に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関しては、職員同士が随時話し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。必要と思われる時は、家族と相談している。玄関の施錠は、入居者の安全を第一に考え、施錠している。	職員が身体拘束をしないケアを理解し、実践しようとしている。職員は、さりげない声かけ、きめ細やかな見守りを行っている。家族に相談し、利用者の安全を確保しつつ、抑圧感のない自由な行動を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や会社内の勉強会などを通して学び、各々が努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市等の要請で書類作成のお手伝い等の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約に関する説明を行い、理解・納得して頂いている。また、疑問等ある時はその都度質問して頂くようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談・苦情窓口が、ホーム・市・国保連にある事を伝えている。「御意見箱」を設置し誰でも投函できるようにしている。申し送りノートやカンファレンスで職員同士情報を共有し解決策を話し合うようにしている。	面会時に家族からの意見を聞くことが多い。担当でない職員でも利用者の状況を家族に伝えられる。これは、職員がユニット毎ではなく、ホーム全体の一員として従事しているからである。利用者の家族からの満足度も高い。	家族に、良いサービスを提供していることが直接理解してもらえるよう、年間行事や各月の行事状況の情報提供をさらに進めていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回全体会議、1か月に1回代表者会議を行っている。	管理者やユニットリーダーは、それぞれ日頃から職員の意見を聞くように心がけている。全職員は毎日出退勤時に全てのユニットに挨拶をしている。ホームはひとつの家族という考えのもと、コミュニケーションを取りやすい環境が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループ会社の標語コンクールを行い優秀賞等の表彰をしている。昇給があり、資格を取った職員は手当がつく。職員各々が働きやすい職場作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事例発表会・勉強会を行っている。事例発表では担当ユニット職員全員で取り組み、ケアの内容など振り返り、見直しの機会になっている。また、研修会のお知らせを職員間に回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県グループホーム協議会及び北本市の地域密着型サービス事業所連絡部会に参加している。部会では作品展を行っている。今年は全国グループホーム協会の大会に参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実施調査を通して相談を受け、実践に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や来所にて今までの経過等を伺いながら、少しでも不安を取り除けるよう、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時、入居者・家族の希望・思い・状況等を聞き、必要とされている支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者も職員も、同じホームの生活者としてレクリエーションや日々の暮らしの中で共に支えあい、雑談の中からも笑顔でいられるよう、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話連絡の時や、行事・レクリエーションの写真や様子のメモを家族に送り、共に支える関係作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた病院に通ったり、教会に通っている方もいる。家族等が面会に来られた時は、楽しい時間を過ごして頂けるよう配慮している。	以前から教会の日曜礼拝に行き続けている利用者があるなど、利用者の一人ひとりの生活習慣を尊重した支援をしている。また、家族に今までのかかりつけ医を確認し、継続して通院できるように支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を考慮し、食事席やレクリエーションの席等配慮している。又、入居者同士の会話が自然に生まれるよう声かけや見守りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に訪問して下さるようお話しさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望に沿えるよう、入居者やご家族の意向を聴いたり情報収集に努め、安心した生活が送れるよう支援している。思いが伝えられない方は、本人の立場に立って考えるようにしている。	管理者は、利用者が職員に気を使って話しかけてくれる場合があることを指摘し、常に言葉や表情から、利用者の真意を推し測るように指導している。職員に利用者の思いや意向を把握しようという姿勢を感じる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者やその家族等から情報を得ながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス・申し送り・介護記録等で把握し、共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族より情報を得、カンファレンス等で情報を共有し、意見の交換をしながら介護計画を作成している。	3ヶ月に1回、ケアプランの見直しのため、ミニカンファレンスを実施している。定期的なケアプランの見直しだけでなく、日々ケアの中で気が付いた利用者の状況変化に応じて、ケアプランを見直すこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の「介護記録」や「ケアプラン実施表」を基本に情報を共有しケアプランに反映するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時・その都度、本人や家族の状況に合わせ、柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアによる入居者様方との交流、行事時のボランティアの要請を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の医師が月2回訪問診療を行っている。体調不良等通院が必要な時は家族了承のもと通院介助を行っている。入居前から通院していた病院に通院している入居者もいる。	訪問診療や訪問歯科など家族に相談をしながら、受診の支援を行なっている。通院の介助時には、医師にしっかりと利用者の状況を説明し、医師からの指示を家族に適切に伝えることができるよう職員に指導している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職は相談しながら日々の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話等で相談し情報交換している。病院での様子が把握できるよう、職員が見舞いに行くように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族・かかりつけ医・施設側との話し合いを行い、方針を共有できるよう努めている。	重度化や終末期について、利用者の状況変化に応じて、早い段階から家族に報告するとともに、関係者で話し合いを行うという体制が整っている。利用者と家族の思いを確認しながら、重度化や終末期の支援のあり方や事業所の方針を共有できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習や勉強会を行い、急変時の対応に備えているが、全ての職員ができるようにはなっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者を交え避難訓練を行っている。運営推進会議を通して自治会に協力をお願いしている。	職員や利用者がいざという時に慌てずに避難誘導ができるよう、定期的に訓練を実施している。また、自治会を通じて、「災害時には近所の方に利用者の手をつないでほしい。」と協力が得られるよう依頼をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあつた声かけや方言で話している。人格や尊厳を損ねないような言葉かけに配慮している。	入浴時、脱衣場も含め、職員と利用者のみで利用する等、常にプライバシーを確保した支援を実践している。利用者のその人らしさを大切に声かけをしている。方言のある利用者にはその方の誇りを傷つけないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き自己決定できるように援助している。自己決定できない人にはその人の立場に立って考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションをとりながら、本人のペースに合わせ1日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員がその人にあつた髪型を定期的にかットしたり、その人に似合う色や洋服を選べるよう支援している。行事の時などマニキュアや口紅を塗る事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けにて職員と一緒に片付けをして頂いている。食事会を行ったり、ホームで採れた旬の物を食べたり、食事を楽しめるよう配慮している。	一人ひとりが喜びや楽しみをもつように工夫した食事を実践している。毎日の食事だけでなく、食事会やお誕生日会を催し、食事をもっと楽しんでもらおうと特別なメニューや雰囲気作りを大切にしている。後片づけは手伝える利用者と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは専門職にお願いしている。毎月体重測定をしている。食事と水分は一人ひとりの好みや状態を考え摂取できるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に合わせた声掛け・誘導・見守り・介助を行っている。義歯は毎日洗浄し、定期的に歯科往診にて診て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者それぞれの排泄パターンの把握に努め出来ない所の援助に努めている。定期的な誘導の必要な方は無理強いにならないよう、自尊心を傷つけないよう、声のかけ方、誘い方等注意している。	排泄チェック表の記録から、利用者一人ひとりのリズムを把握し、スムーズな排泄につながるよう支援している。利用者の様子を観察し、あからさまな誘導とならないように、さげない声かけをして、気持ちよく排泄できるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し、排泄の有無の確認・排泄パターンの確認をしている。マッサージやかかりつけ医との下剤の調整、水分摂取等により、排便のコントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調や希望に沿うような入浴介助を心がけている。不快感なく入浴して頂けるよう声掛け・促すよう努めている。浴槽に入れない方もリフト浴を利用しお湯にゆっくりつかれるように支援している。	体調に注意するだけでなく、利用者の希望も確認し、一人ひとりの気持ちに合わせた入浴となるように配慮している。利用者の身体状況によっては、リフトを使用することで、安心して、スムーズに入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方とは、話をしたり、お茶を飲んだり、添い寝をしたりして、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを作り、職員がいつでも確認できるようにしている。医師の指示は介護記録や申し送りノート等を利用し、職員同士が共有できるようにしている。服薬マニュアルや毎月の服薬委員会で事故の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあったお手伝いをお願いし、終了後は必ずお礼を言うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者・家族の希望により定期的に外出されている方もいる。多くの方に外気浴して頂けるよう、お誘いの声かけをしている。	外出は、気分転換になり、五感の刺激にもなるので、利用者の状態やその時々状況に応じて支援している。歩行が困難な利用者であっても、車いす等を利用することで、外出できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できない方ばかりなので、ホームで一括管理している。本人の希望により、外出時財布を渡している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族に書いて頂いている。希望があれば自ら電話をかけたり、かかってきた電話には本人に取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内はレクリエーションで入居者様方と共同作成した作品を飾っている。玄関には季節の物(雛人形・五月人形・七夕飾り・クリスマスツリー等)を飾っている。	利用者が多くの時間を過ごすフロアは、居心地よく過ごせる場となるように配慮している。時期にあった飾り付けや装飾品を活用して、季節感のある雰囲気を作るように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーにソファを置きフリースペースを設けている。のんびり過ごす方もいればおしゃべりしたり、テレビを見ている入居者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を持参頂き、居心地よく過ごせるよう配慮している。コルクボードを設置し誕生日の式紙や写真を飾って楽しめるようにしている。	その人らしく、安らぎを得ることができるように配慮されている。たくさんの写真を飾るなど本人の希望する居室作りが行われている。共用の空間も利用者それぞれの居室も居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて居室にポータブルトイレを設置している。矢印を付けたり目印に花や看板をつけて一人ひとりに合わせた配慮に心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に社の理念とホームの目標を唱和し業務に入っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園等の散歩時きんじょの方々に挨拶させて頂いている。地域の清掃活動に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の家族を支える「やすらぎ支援員」(傾聴ボランティア)の受け入れ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見は職員に報告しケアに活かせるよう努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス事業所連絡部会に参加し、話し合いを持っている。事故報告書を市に提出し指導頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関しては職員同士随時話し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関のせじょうについては以前外に出てしまった入居者がおり、安全を第一に考え、玄関に施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や社内の勉強会で学び各職員が努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族等の要請があれば書類作成のお手伝い等支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に書類に関する説明を行い理解・納得して頂いている。また、疑問等ある時は、その都度質問されるようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談・苦情窓口がホーム・市・国保連にある事を伝えている。「御意見箱」を設置し誰でも投函できるようにしている。申し送りノートやカンファレンスで職員同志で情報を共有し、話し合うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	おおむね全体会議を二カ月に一回、代表者会議を一か月に一回を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループ会社で標語コンクールを行い優秀賞等の表彰をしている。毎年昇給があり資格を取った職員には手当がつく。各職員が働きやすい職場作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	11月事例発表会、6月・3月勉強会を行っている。事例発表では、担当ユニット職員全員で取り組み、ケアの内容など振り返り・見直しの機会になっている。また、研修会のお知らせを回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県グループホーム協議会、北本市地域密着型サービス事業所連絡部会に参加している。今年は全国グループホーム協会の大会に参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実施調査・面談を通して相談を受け実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や来所にて今までの経緯等を伺いながら、不安を少しでも取り除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人・家族の希望・思い・状況等を聞き、必要とされる支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者も職員も同じホームの生活者として、日々の暮らしの中で共に支えあい、昔の事などを伺いながら信頼関係を大切にしようとしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・電話連絡・行事へのお誘い・レクの写真の送付等で、本人を共に支える関係作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や連絡をとれる環境作りを心がけている。入居前から通っていた病院に通っている人もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を考え食事席など配慮している。入居者同士の会話が生まれるよう、職員が間に入り声かけを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	後々いつでも電話・訪問お待ちしておりますと話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いを受け止めるよう努めている。入居者の立場に立って考えるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どのような暮らしをしていたか、本人や家族に伺い把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・カンファレンス・介護記録等で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族等との交わりから情報を得、カンファレンスを行い計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を記入し申し送り等で入居者の様子を職員間で共有し、ケアの実線や介護計画に活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて通院の送迎の援助や買い物等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の時地域のボランティアに参加して頂くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望で1か月2回の訪問診療を受けている。無料で通院介助を行っている人もいる。入居前からのかかりつけ医にかかっている人もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職は相談・協力しながら日常の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話等で相談し情報収集に努めている。入院中は職員が見舞いに行き、病院での様子を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族・かかりつけ医・施設側との話し合いを行い方針の共有に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の講習や勉強会を行い急変時の対応に備えているが、全職員が対応できるようにはなっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者を交えて避難訓練を行っている。運営推進会議を通して自治会の方々に協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった声かけを心がけ、支持的にならぬよう、個人のプライバシーや自尊心を損ねないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をお聞きし自己決定できるよう働きかけている。思いを表わせない入居者にはその人の立場に立って考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の流れは大体決まっているが、その中でも、起床や臥床・入浴等その人のペースで暮らしていけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットは定期的に職員が行っている。入浴後等な爪切り等の整容も職員が定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳のできる入居者には下膳をお願いしている。誕生日会等行事の時は食事を楽しんで頂けるよう食事会を行うようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは専門家をお願いしている。個々の入居者の状態に合わせた食形態を考え、又、水分については個々の入居者の好みに合わせ、一日の水分摂取を確保できるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声かけでハミガキできる方はお願いしている。自分で出来ない方は職員が介助に行っている。義歯は薬剤洗浄し、定期的に歯科医の往診をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し様子を確認している。水分摂取を心がけ腹部マッサージを行ったり医師と相談して下剤を使用するなど便秘の予防に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体の清潔を重視しながら、本人の希望に沿えるように、また、浴槽に入れない方もリフト浴を使用し、ゆっくり浴槽に入って頂けるように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時は、一緒にお茶を飲んだり、話をしたり、個人の意思を尊重しながらその時々で対応を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬リストを作り職員はいつでも確認できるようにしている。医師の指示は介護記録や申し送りノート等で共有するようにしている。服薬マニュアルや毎月の服薬委員会で服薬事故の予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる事に応じて洗濯物を干したりたたんだりをお願いし、その都度お礼を言うように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は公園を散歩したり屋上に出たりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方がいないのでホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	掛かってきた電話は取り次いでいる。希望があれば電話をかけて頂き自由に会話して頂いている。年賀状は毎年書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の物(雛人形・五月人形・七夕飾り・クリスマスツリー等)を飾り、談話コーナーには入居者の習字を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーにはソファと椅子を置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはコルクボードを取り付け誕生日の色紙等を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	老化に手すりを設置し床はバリアフリーになっている。本人の希望や必要に応じて居室にポータブルトイレを置いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に社の理念とホームの目標を唱和し業務に入っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時地域の方や花屋の店員さんに声を掛けさせて頂いている。地域の清掃活動に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の家族を支える「やすらぎ支援員」(傾聴ボランティア)の受け入れ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見は職員に報告しケアに活かせるように努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス事業所連絡部会に参加し話し合いを持っている。市へ事故報告書を提出し指導いただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関しては職員同士随時話し合い拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては以前出てしまったことがあり、入居者の安全を第一に考え、施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会で学び各職員が努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族の要請を受け書類作成等の手伝い等の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約に関する説明を行い、理解・納得していただいている。また、疑問等あるときはその都度質問されるようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談・苦情窓口がホーム・市・国保連にあることを伝えている。「ご意見箱」を設置し誰でも投函できるようにしている。申し送りノートやカンファレンスで職員同士情報を共有し解決策を話し合うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	おおむね2ヶ月に1回全体会議、1ヶ月に1回代表者会議を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループ会社での標語のコンクールを行い優秀賞等の表彰をしている。毎年昇給があり、資格を取った職員には手当がつく。各職員が働きやすい職場作りをを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で事例発表会、勉強会を行っている。事例発表では、担当ユニット職員全員で取り組み、ケア内容の振り返り・見直しの機会になっている。また、研修会のお知らせを回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県グループホーム協議会および北本市地域密着型サービス事業所連絡部会参加している。部会では作品展を行っている。今年是全国グループホーム協会の大会に参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実施調査・面談を通して相談を受け実践に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や来所にて今までの経緯を伺いながら、不安を少しでも取り除けるよう信頼関係を築けるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・家族の希望や思い・状況を伺い、必要とされている支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者も職員も同じホームの生活者として暮らしの中で共に支えあい、信頼関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・電話連絡・行事の参加や手紙のやり取り等本人を共に支える関係作りを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやり取りや連絡のとれる環境作りを実践している。本人の馴染みの人の面会もあり、本人とともに喜んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を考え、食事席等配慮している。職員が間に入り、入居者同士の会話が生まれるよう声かけ・見守りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	後々も、いつでも訪問して頂きたいとお話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者との会話等から希望や意向を伺っている。思いが伝えられない入居者とは、その人の立場に立って考えられるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実地調査や入居者・家族から情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、介護記録やカンファレンス等で把握を努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から情報を得てカンファレンスを行い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプラン実施表を活用し、情報を共有しながら計画に反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせて対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの方に月に1回来所して頂いている。行事の時にはボランティアの方に参加して頂くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回訪問診療を受けている。本人、家族の希望や必要に応じ通院介助を無料で行っている方もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職が相談・協力し健康管理をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来るだけ見舞いに行き、入居者の状態を把握したり、電話にて情報を交換できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、施設側とで話し合いを行い、方針の共有に努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受け、急変時に対応できるように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者を交えた避難訓練を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人にあった声掛けや言葉を選び、1人ひとりの尊重とプライバシーを守るよう配慮を心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望や訴えなどを聞き、自己決定ができる様、声掛けや配慮をしている。又、主張出来ない方の場合、その立場に立って考えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで過ごしてい頂ける様、支援を行っているが、やむを得ず職員の都合になってしまう場合がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切りや耳かきなど、身だしなみに注意している。又、洋服のサイズやほころびなどにも配慮している。職員対応で、2ヶ月に1回ヘアークットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会や行事の時等、外食又は出前を取ったりと楽しんで頂ける様心掛けている。できる方は、職員と一緒に後片付けをしたりされる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは専門家をお願いしている。水分チェックが必要な方は、チェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛け・誘導を行っている。義歯は定期的に薬剤洗浄をしている。又、定期的に訪問歯科の往診にて診て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々のトイレのタイミングを把握し、手を出し過ぎない様配慮している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、体操、マッサージ等を心掛けている。かかりつけ医と相談し下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の体調を考慮しながら、個々の希望に沿った入浴をして頂ける様心掛けている。浴槽に入れない方は、リフト浴を利用し、ゆっくりお湯につかって頂けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるよう日中の過ごし方に配慮している。又、居室の温度調整にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は用法、用量について理解に努め、確認しながら服薬介助するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる事をお手伝いして頂き、必ずお礼を言うようにしている。又、レクリエーション、季節毎の行事等を行い楽しんで頂ける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩に行ってもらえる様、声掛けを心掛けている。屋上で外の空気に触れられるよう促すこともある。家族旅行や家族との会食の時は楽しんで頂ける様お手伝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方がいないため、ホームで一括して管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の手紙は本人に渡している。年賀状を書いて頂いている。電話は家族の許可があり、本人の希望があればかけて頂いている。かかってきた電話には自由に会話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には雛人形、五月人形など季節のものを飾っている。食堂や居間には、入居者が作った手芸品や行事で撮った写真などを飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や談話コーナーには、椅子・ソファがあり、テレビを観たり、新聞を読んだりできる。ベランダを散歩したり、外の景色を見たりすることで気分転換がはかれる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ってきた使い慣れた物、好みの物、家族の写真などを飾り、居心地よく過ごせるよう配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方にあつた援助を行い、安心して生活できるような環境を心掛けている。廊下、階段に手すりを設置、床はバリアフリーとなつていて安全面にも配慮している。		